

平成24年度第3回幸区区民会議

日 時 平成25年3月18日（月）午後6時30分

場 所 幸区役所5階第1会議室

午後6時30分 開 会

開会

司会 皆様、こんばんは。幸区役所企画課長の佐々木でございます。

これより第3回第4期幸区区民会議を開催いたします。

本日の委員の出席人数でございますが、20名中15名の方が御出席されておられて、定足数である過半数を超えておりますので、この会議が成立していることを御報告させていただきます。

それでは初めに、幸区長の森下から御挨拶を申し上げます。

区長 どうも、皆様、こんばんは。区長の森下でございます。本日はお忙しい中、委員の皆様、そして参与の先生も御出席いただきまして、ありがとうございます。

現在2つの部会で審議を進めておりますが、防災も、そして見守りも、区民の大変関心の高いテーマでございますので、今後とも事務局としてしっかり皆様の御審議を支えてまいりたいと思っておりますので、本日はよろしくお願いいたします。

司会 ありがとうございます。

では、次に配付資料の確認をさせていただきます。お手元の資料をごらんください。まず、一番上に議事次第と書いてある資料が1枚ございます。その後ろに、右上に資料とございますカラー印刷したものが1点、その後ろに、参考資料1、本日の座席表でございます。なお、幸区役所の出席者といたしましては、区長を初め関係部署の部課長等が出席おりますので御参照ください。次に、参考資料2、第4期幸区区民会議委員・参与名簿、その後ろに、参考資料3、第4期幸区区民会議平成25年度スケジュール（案）となっております。そして最後に、先日の3月11日に新聞折り込み等で発行しております「さいわい広報特別号」をお配りしてございます。

資料のほうは過不足等ございませんでしょうか。大丈夫でしょうか。

それでは次に、会議の開催に当たりまして幾つかお願いがございます。こちらの会議は公開の会議となっております。傍聴ができるものでございます。また、会議録を作成し、公表することになっておりますので、会議内容について録音をさせていただきます。なお、本日の傍聴者数でございますが、現在のところ5名の方が傍聴にお見えになっております。また、会議の様子につきましては、広報や行政の記録に利用するため写真撮影をさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、ここからの進行は西野委員長にお願いしたいと思っておりますが、本日こちらの会議の終了時刻につきましては、午後8時ごろを目途に進行をお願いしたいと思

ます。それでは、西野委員長、よろしくお願いいたします。

1 本日の進め方について

西野委員長 皆さん、こんばんは。ちょうど年度末でお忙しい中、また強い風も吹いている中、御出席くださりましてありがとうございます。

それでは、議事次第に従って進めていきたいと思えます。なお、本日の会議は、先ほど司会からもありましたように8時ぐらいに終了したいと思えますので、よろしくお願いいたします。

本日の予定ですけれども、前回、第2回のおさらいをしますと、資料の2ページにございますが、暮らしの安全部会では、当面は、防災について1から3の検討項目について調査審議を進めるという御報告がありました。また、みんなで見守りたいからは、地域の見守り体制づくりに向け、1から3の点に留意し調査審議していくという御報告をいただきました。

本日の予定としては、上段にありますとおり、前回の区民会議以降、それぞれの専門部会で調査審議していただいた内容を御報告いただき、それを委員全員で審議していきたいと思えます。その後、今後のスケジュールを確認したいと思えます。

2 専門部会（暮らしの安全部会）の調査審議状況について

西野委員長 それでは、暮らしの安全部会の報告を近藤委員からお願いしたいと思えます。よろしくお願いいたします。

近藤委員 それでは、暮らしの安全部会の調査審議状況について御報告させていただきます。

報告内容は3点です。1、これまでの調査審議の状況、2、（仮称）マイ防災マップの作成に向けた検討、3、今後のスケジュールです。

まず、これまでの調査審議の状況についてです。前回の第2回区民会議では、当面防災について調査審議を行うこと。また、①自助に関する検討、②エリア別防災マップの検討、③中学生と連携した防災訓練等の取組の検討の3つを調査審議の方向性としたことを御報告してきました。本日は、その後の専門部会での調査審議の内容について御報告させていただきます。簡単にまとめますと、3つの方向性の中からエリア別防災マップの作成について検討してきました。また、幸消防署が実施している災害図上訓練——DIGを視察し、日吉中学校と連携してマイ防災マップを作成していきたいと考えているところです。

3つの調査審議テーマの方向性ですが、自助に関する検討については、自助の意識向上や実行のための取組、エリア別防災マップの検討については、区民参加による防災マップ作成による防災意識の向上、中学生と連携した防災訓練の実施を検討してい

くことにしていました。これらに共通することは、中学生を軸とした自助、地域防災力の向上ですので、この点を踏まえて具体的な取組を検討してきました。

3つの方向性の中から特に委員の関心が高かったエリア別防災マップづくりについて審議を行ってきました。その結果、中学生の自助や地域防災力の向上が図れるものとして、（仮称）マイ防災マップの作成をしていくことになりました。マイ防災マップづくりに取り組む理由としては、中学生が参加しやすいこと、中学生との連携により生徒だけでなく、PTAや地域の方の参加の協力が期待できること、子どもから大人までの参加者が一緒に歩き、考えることで、防災意識の高揚と顔の見える関係づくりができることです。

中学生を対象とした防災訓練として、幸消防署が今年度から災害図上訓練——DIGを実施しています。これまで、南河原中学校の1年生、御幸中学校の1年生、日吉中学校の2年生を対象に実施しています。

では、災害図上訓練——DIGについて説明いたします。DIGとは、Disaster Imagination Gameの頭文字をとったもので、災害を図上でイメージするゲームです。また、DIGには英語で、掘る、探究する、理解するという意味もあり、防災訓練を掘り返す、地域を探究する、災害を理解するという意味を込めDIGと名づけられています。では、実際にどのようなことを行うかといいますと、地域の地図を広げ、その上に透明なビニールシートをかぶせ、参加者全員で地域の地形的特徴や防災上、役に立つもの、危険となるものなどの情報を地図に落とし、平常時及び災害時にとるべき行動などについて議論するものです。

DIGでは、幸消防署の署員から災害時に起こることを聞き、被災地の写真を見て、災害時の危険箇所やどのようなことが起こるかなどを学習します。一方で、DIGは図上訓練ですので実際にまちを歩くことはしません。マイ防災マップづくりでは、実際にまち歩きをし、地域での危険箇所などを確認しますので、訓練の効果を高めることになると考えています。

ここで、幸消防署が実際に使用しているスライドを見ていただきたいと思います。防災上の視点から、地域の強さ弱さを理解するとして、自然条件やまちの構造、危険箇所などを考え、地図上の該当箇所に記入や印をつけ、地域の特徴を確認していきます。

次に、発生した地震の規模や天候などが示され、その状況の中でどのような災害が発生し、まちがどのような状況になるのかを考えていきます。

また、実際に被災した写真を見てもらい、自分たちのまちでの被害をイメージしてもらいます。写真は、新潟県中越沖地震でブロック塀が倒壊した様子です。このような箇所は危険箇所として地図上に記入していきます。次の写真は、店舗のガラスが割れている様子です。このようなガラス張りの建物にも注意をする必要があります。次

の写真は、道路の亀裂や家の擁壁が崩れている様子で、こういったことも起きることを考えておく必要があります。

以上のことを踏まえ、地図上に危険箇所、建物の倒壊、火災、陥没、土砂崩れなどが起きそうな箇所を記入し、スライドのような地図を作成していきます。

地域の特徴や地域に起こる被害、日ごろから何を準備し、どのような対策をしておくことが必要かをまとめていきます。

最後に、幸消防署の署員から、スライドにあるとおり大切なことについて説明があり、終了となります。

次に、先週3月12日に日吉中学校2年生を対象に開催されたDIGを視察してきましたので、そのときの報告をいたします。写真はそのときの様子です。

7、8人で1つの班をつくり、12班に分かれて行いました。初め、地図上の自分の家にシールを張るところから始まりましたが、自分の家がわからない生徒もいて、最初はどうなることかと思いましたが、作業が進むにつれ熱心に取り組んでいました。班によってでき上がりの地図に差はありましたが、どの班も意見を出し合い、議論していました。また、参加した生徒1人1人が想像しながら地図を完成させていたので、この体験を生かし、マイ防災マップづくりにつなげていけるのだと実感しました。

今後、DIGを活用し、マイ防災マップを作成していきたいと考えています。DIGとマイ防災マップの関係を整理しますと、DIGの目的は、自分のまちの災害上の特徴や強み弱みを地図上で理解すること、まちに起こる被害を想定し、日ごろの対策を検討することであり、地図づくりではありません。また、効果としては防災意識の向上や防災知識の習得にあります。一方、マイ防災マップづくりの目的は、DIGで学んだ防災知識を踏まえ、まち歩きをすることで地域の現状を実際に目で確認、把握するとともに、避難方法など震災時に必要な行動を習得するものです。効果としては、学校から自宅、自宅から避難場所までの避難経路を各家庭で共有できること、また中学校との連携により、PTAなどの地域に参加いただくことが期待でき、顔の見える関係づくりや地域での支え合い、ひいては中学生の自助や地域防災力の向上につながるものと考えています。

以上のことから、私たち委員がDIGを視察した日吉中学校に御協力いただき、マップづくりを進めていきたいと考えています。実施時期につきましては、日吉中学校の下校訓練が行われる8月下旬に、今回DIGを体験した学年、8月には3年生になりますが、その3年生の20人程度を対象として、生徒が家まで帰る道のりを私たち委員と一緒に歩き、その後、防災マップを仕上げる作業をしていきたいと考えています。

対象地区の案としては、北加瀬1丁目地区を考えています。その理由としては、日

吉中学校から1時間程度で歩ける距離であること、ブロック塀や急傾斜地、一時（いっとき）避難場所となる公園、空き地など、地図上に落とす点検項目が多いこと、まち歩きの後、マップづくり会場が確保できるためです。

マップづくりワークショップのタイムスケジュールのイメージは、まち歩きが1時間程度、マップづくりが30分程度、生徒による発表が20分程度、区民会議委員によるまとめが10分程度を予定しています。

今後の検討項目としては、実施方法については、中学生が楽しめる工夫や幸消防署などの専門家による助言、支援に関すること。マップについては、サイズや素材など、体裁、掲載する情報。PTA、町内会・自治会、自主防災組織など関係者との連携があります。

私たちの部会では、調査審議テーマの方向性の1つに自助の重要性があります。これまで備蓄の促進や高層マンション住民が気をつけることなどの自助に関する知識や、地域や行政の防災に関する取組が区民に十分知らされていないという意見がありました。これらの意見を受け、お手元に配付されているとおり、区役所では、防災に関する「さいわい広報特別号」を発行していただきました。とてもわかりやすく、チェック項目もあり、使える広報紙になっていると思います。

最後に、今後のスケジュールですが、防災については、マイ防災マップづくりに向けた取組として、ワークショップ開催に向けた検討や実施後の検証を行っていきたいと思っています。また、もう1つのテーマである自転車マナーについては、マナー向上に向けた取組の検討を行い、年末には暮らしの安全部会としての提言の方向性をまとめていきたいと考えています。

以上で、暮らしの安全部会の報告を終わらせていただきます。

西野委員長 今、近藤委員から、わかりやすく部会報告をしていただきました。先日、私も日吉中学校でのDIGの視察に参加する予定でございましたが、事情で行かれませんでした。済みませんでした。

それでは、今御報告いただいた内容について、委員の皆様、全体でお気づきの点等々ありましたら御審議いただき、御意見をいただき、次回の部会等に活用できるように進めていきたく思いますので、ひとつよろしく願いいたします。皆さん、一言ずつでもいいですからいただきたいと思っておりますので、いかがでしょうか。

先日、DIGのほうに、押山委員、近藤委員、鈴木（奈）委員、それから三堀委員が参加していただきましたが、その4名の方、お気づきの点を。押山委員から御意見としていただければと思います。それに対して、また皆さんから何かありましたら、よろしく願いいたします。

押山委員 日吉中学校に行ってみまして、生徒たちが熱心に取り組んでいる姿を見ました。通常、防災訓練をやっても高齢の方ばかり参加されているようですが、今

回、東日本大震災のときに中学生が実働部隊としてすごい働きを示したということで、実際に地元において動ける人というのは、やっぱり中学生じゃないかなと思うんです。それからまた、役に立つ人たちなんじゃないかなと思うんです。そういった意味で、DIGによる災害を想定した消防署員の指導というのはすごく有効だったと思います。だから、参加できた2年生の生徒たちはすごくラッキーだったと思います。本当にいい取組だったと思います。

以上です。

西野委員長 近藤委員はいかがでしたか。

近藤委員 私の息子は日吉中学校にいますけれども、ちょっと頼りないと思っていたんですが、実際見ていたら2年生は結構しっかりやっていて、今度8月の訓練のときに一緒にマップづくりをということで、ちょっと期待しています。いいマップができるといいなと思っています。

西野委員長 ありがとうございます。では、鈴木（奈）委員。

鈴木（奈）委員 DIGの実施が3月11日の翌日、3月12日だったこともありまして、皆さん関心が高く、遊んでいるとか、あきちゃった子はほとんどいなくて、100名近くの子どもたちみんなが真剣に参加して、それには本当にびっくりしました。

ただ、これはあくまでイメージトレーニングみたいなもので、実際とは関係なくて頭の中で考えたことなどの想定を、地図に落としとしていったわけですよ。今度私たちが8月にマップづくりを行おうと思っているんですけれども、主の戦力になる子どもたちを巻き込むということもありますし、でき上がったものをパパやママたち、おじいさん、おばあさんたちが、うちの孫が参加してつくった、うちの子どもたちが参加してつくったという、行政の方がつくってくださったものよりずっと注意深く関心を持って見てくださるんじゃないかと思ひまして、それも期待大と思っています。

以上です。

西野委員長 ありがとうございます。三堀委員はいかがでしたでしょうか。

三堀委員 私も、DIGマップづくりというのは初めて見ました。いろいろ危険箇所を各地域内で調べて、消防署の方のアドバイスがよかったのか、非常に皆さん熱心にやってくれました。私の述べたいことは、さきの鈴木（奈）委員からほとんど言っていたんですけれども、ただ私が1つ気がついたのは、道具が多過ぎてまとまりが悪いというようなことです。もう少しシンプルにしたほうがいいのではないかなというような考えを私は持ちました。大きいマークなら大きいマーク1本にして、小さいマークは使わないほうがいいのではないかと。同じ危険でもいろいろな条件がありますから、がけの下の危険度ですとか、ビルのガラスの危険度ですとか、できるだけ危険箇所は、ここは危険箇所だよということでもう少しシンプルに示したほうが、私は覚えやすいのではないかなということを感じました。

以上です。

西野委員長 ありがとうございます。今、DIGのほうに参加して、かなり参考になる御意見をいただいたんですけれども、皆さんの中で、もうちょっと聞いてみたいところとか、あるいはマイ防災マップづくりに対しての御意見等がありましたら、ひとつよろしくお願ひしたいと思います。

檜林委員 マップづくりを今伺って、すばらしいなど。私も、かねてから災害のときには中学生を巻き込むのがいいんじゃないかなど。災害が起きる時期によっては、一般の男の人は会社に行っているんで、中学生は学校にいるからいいんじゃないかなど。中学生ぐらいになるともう体力もありますし、大人ぐらいの働きは十分できるので、ここに目をつけたのはすばらしいなと思いました。

あと、日吉中学校の生徒さんがこんなに純粋で区民会議の方たちに協力してくれたというのはすごいなど。私は塚越の踏切のところに、毎月1日と10日に見守りで立つんですけれども、おはよう、いってらっしゃいと言っても、なかなかきちんと挨拶してくれる子どもが、中学生は少ないんです。それなのにこんなに協力してくれて、すばらしい中学校だなと思いました。この案はすばらしいなど、称賛します。

西野委員長 ありがとうございます。では、戸張さんのほうから。

戸張委員 私はちょっと心配なんですけれども、例えば日吉中学校で先生のもとに指導を受けているときに地震が発生したと。そのときに今の中学生がリーダーとして、あるいは避難するときに率先してボランティア活動をするという考え方。例えば、東北の大川小学校で100名のうち80名の子どもが亡くなったというときに、やっぱり先生の立場はうんと問われていますけれども、中学生はどういう対象なのか。避難なのか、それとも皆さんを助けるのか。例えば消防団のほうも、ある程度守ることをするんだけど、最後は自分自身を守らなくちゃいけないというようなことをよく言われているもので、中学生の場合はそれでいいのかなど。

僕だったら、避難所へ行くためのコースとか、危ないところはどこなんだということを中学生が知って、みんなを避難誘導するとか、そういう目的があるならいいけれども、例えばガラスがあって危ないなというところがあったら、そこをよけるんだよとか、あるいは石のブロックが倒れたら危ないよという箇所を知っていて、どうなるかと言うと失礼なんだけれども、自分の身の安全は確かに守れるんだけど、組織としての方向、中学生に対する態度というのはどうなのかなどということが1つあります。

それから、マップについても、今のようにいろいろな角度、いろいろなことがそのマップの上に載っているということになると、僕らだったら、津波や何かのときにはまず逃げるんだよと言われているので、自分の身の安全を守るという意味で、そういうような方向に皆さんで、あるいはマップの考え方1つも、中学生にどの程度できる

のかということ。それから、中学生がリーダーシップをとっていてもし何かあったときに、事故が起きた場合には誰が責任をとるのかということをおちょっと心配になって、先生もどうなるのかなと心配になりましたので、ちょっとお伺いします。

以上です。

西野委員長 ありがとうございます。その件につきましては、後でまとめて神谷（厚）さんがお話ししてくれるかもしれませんが、部会の中では、中学生にそういう部分を知ってもらうという目的でマップをつくってもらう。中学生がリーダーとして率先していくというのは、やはりお子さんですから非常にまずいですね。そうすると、目的は、まず自分たちが逃げてくれと。そのために自分たちのエリアを知ってもらう、そうすれば一番逃げやすいんじゃないか、そういう概念です。つくったから、大人たち、年寄りを助けに出ていくという目的はございませんので御安心いただければと思います。

酒井委員 赤ちゃんハイハイあんのつどいをもう10年以上やっているんですけども、日吉中の生徒が参加して赤ちゃんと一緒に遊んでいます。町内会としても、地域、学校、家庭の連携をとということで、今のうちの町内会長なんかも、特に3・11のとき以来いろいろ考えまして、特に中学生を、昼間の動けるうちは、先生方と相談して何かお手伝いしていただくようお願いしようなんて言っていますけれども、今、日吉中の生徒はなかなか活発というか、地域に、特に祭礼だとかそういう行事に参加することが多くなっています。そういうことで、動ける生徒が動いてほしいという想いを、町内会ぐるみで持っています。

以上です。

鈴木（忠）委員 私も今、酒井委員の言葉とか、戸張委員の御発言に本当に賛成でございます。それに加えて、やっぱり中学生は中学生の考えしかないと思うんです。ですから、こういう大きな問題はまち全体、町内会、婦人部も、男の方も、青年部も一緒になって考えることだと思うんです。ですから、そういう会合を町内会でひとつつくと、皆さんで、こういう災害のときはどうしたらいいんだろうということを、まずそこから話し合っていないとなかなか前へ進んで進んでいかないかと思えます。中学生だけですと偏ってしまうので、全体でそういう話し合いをして、近所、向こう三軒両隣をどういうふうにしようとか、町内会の中でそういう話をいろいろしたほうがいいんじゃないかと私は思いました。

西野委員長 ありがとうございます。

村田委員 報告資料を拝見させていただいたらものすごくわかりやすく、消防署と連携してマイ防災マップづくりを考えられたということはすばらしいことだと思います。そして、今、実地訓練はやっているんですけども、その前に地図上で、頭でインスピレーションでやるということは、実際の実地訓練をやったときにそれ以上の効果が

あるということがあって、これはすごく素晴らしいことだと思います。

それと、先ほどから中学生のことが出ているんですけども、私は日吉地区の南加瀬に住んでいるんですけども、小倉の陽だまりというお年寄りでも、赤ちゃん連れのお母さんたちでも、また子どもでも、誰でもがそこに立ち寄ってひとときを過ごすという場があるんです。そこによく、お年寄りがいらっしゃるんですけども、徐々に中学生がそこにも来るようになりまして、そこで高齢者の方と顔見知りになりまして、その効果があったんでしょうか、3・11のときは中学生が自発的に、あそこら辺の地域のお年寄りの安否確認をしたということがあります。それで、やはり中学生は常に弱い立場の人を心配する、自発的に何かしようという行動が出てくるものじゃないかと思っています。

それともう1点、先ほど酒井委員のほうから、赤ちゃんハイハイあんよのつどい、これも十何年やっているんですが、たしか3年目から中学生がかかわるという形になったんです。最初、中学生は、赤ちゃんと初めて接したときは遠目から見ているような感じでしたけれども、だんだんなれてきましたら、自分のほうから赤ちゃんをあやすようになったんです。それは、やはり地域の方と接するという学校側の姿勢なんでしょうか、今回中学生との連携という形で、ここは素晴らしい点だと思ったんです。地域もそうですけれども、学校も全体で協力していくということが私はすごく素晴らしい、この形がちょうどいい形になっているんじゃないかと思っています。

以上です。

古場委員 非常に活発ですばらしいなと思います。今、中学生という1つの切り口についての議論なんですけれども、私は、若い人たちを大人になるまでの間に、より社会に貢献するという思いを持っていただくことが非常に大事なことだろうと。そしてそれは、できれば具体的に、今回のようなD I Gみたいな活動に参加して、体を動かすことによって初めて気づきが生じる。そして気づきが生じることによってほかの人たちと話をしたり、コミュニケーションが生まれていくということがありますので期待できますし、そういう意味では、いい試みだったんじゃないかと。

ただ、幾人かの方が御心配されたように、考えるだけが先走っていくのは具合が悪いだろう、いざというときの役割分担はしっかりしておかないといけないだろうと思います。先ほどの御報告の中にも、あるいはその後の討議にも、この辺のところははっきりとおっしゃっておられたと思います。まず現状においては中学生にそういうことは期待していないと。さらに、今回のD I Gは、どちらかというとな教育的な意味合いが強い、自分たちの住んでいる場所がどんな地域であるかという事実を見きわめるということを主たる目的としているんだというお話がありまして、そのような形で、今後もさまざまな局面で、私どももしかり、中学生、あるいは教育という形で若い方たちのレベルアップを図るべきだろうと思っています。

西野委員長 ありがとうございます。古場部会長がみんなで見守りたいの部会長をやっていますので、みんなで見守りたいの議論とオーバーラップする部分が出てくるんじゃないかと思います。

それでは、あと御意見はございませんでしょうか。御指摘がたくさんありましたので、次回の部会に、部会長が頭の中におさめて進めてくださると思います。

では、神谷副委員長にまとめを1分程度でお願いしたいと思います。

神谷（厚）副委員長 今回はわかりやすい報告で、皆さんがいろんな意見を出してくださったので、まとめというほどのことはないと思いますけれども、まずDIGをやり、その後、それを使いつつ、8月末には現場を歩きながらマイ防災マップを作成するというので、子どもたちの意識がまたすごく向上していくのではないかと思いますし、そのときにはまたPTAとかそういう方たちの協力も得るような形でやっていきたいなというようなこともあります。やっぱり若い人たちも、今は防災について、防災訓練についてもかなり高い意識を持っていますけれども、訓練に参加するということにまだまだつながっていないんだと思うので、その辺で少しずつ、マイ防災マップづくりを日吉中学校でやることについて意義があるんじゃないかと思います。

それに、このDIGについては3校、南河原中学校、御幸中学校、日吉中学校と済みました。塚越中学校と南加瀬中学校はまだです。それから、平間中学校も幸区にかかっています。そういうまだやっていないところにも、日吉中でこういうことをやったというアピールがあれば、ほかのところもすごく勉強になったり、自分たちのところもという意識が学校側にも生まれてくれればそれはすごく助かるなという思いがあります。

以上です。

西野委員長 神谷副委員長、どうもありがとうございます。本当に活発な御意見をいただきまして、ありがとうございました。

3 専門部会（みんなで見守りたい）の調査審議状況について

西野委員長 続いて、みんなで見守りたいの報告を、古場委員のほうからよろしくお願いたします。

古場委員 古場でございます。みんなで見守りたい部会の報告を、まず一番最初に、この4カ月で何をやったのか、そして何が変わったのか、その結果どうなったのか、それから、今後どうするんだということ、この4つに分けてお話をいたします。

何をやったのかということですが、まず一番最初に、川崎市市民会議条例の勉強会をやりました。市民会議の資料を最初にいただいたわけですが、読んでみて、わかりづらい。しっかりとわかることが我々の前提であろうと強く思い、そして、事務局に調整していただいて、宮前区の企画課に、当時このまとめ上げを担当された方がおら

れるということで、機会をつくっていただきました。阿部企画課長のお話がおよそ1時間、その後討議が30分ぐらいという計画でしたが、実際には討議が1時間半ぐらいありましたので、大変長い会議になりましたけれども、よくわかった。

そして、もともとの目的である区民会議の機能と、何が期待されているのかということ、期待、成果並びに委員の任務と責任を実践的に理解することが目的だったわけです。つまり、自分たちの立場をよく知ることが目的だったわけですから、これは果たせたと思っております。

次に、専門部会を3回やった。スライドは字が小さいのでお手元の資料で結構ですが、12月12日、ことしの2月4日と2月16日。ここが詰まっておりますのは、12月の会合でいろんなところにインタビューをしようということが決まりました関係で、その次の部会開催がちょっと遅くなった。したがって、ここが詰まったわけです。この後も含めて5つの団体にインタビューをいたしました。

このときに、幸区の見守りの全貌について事務局から御紹介があったわけです。これは資料1枚などではなく、かなりの量の資料が出てきたのですが、これはよくまとまっています。全部で16くらい幸区がやっているということがわかった。これについては、今後それがどういう状況になっているのかを我々は調査していこうと思っております。こういう資料である程度はつきり見えてきたけれども、では実際にあたってみてどうなのか。社協さんとか、民生委員さん、児童委員さんの実態と、塚越の陽だまりであるとか、南河原地区の民生委員の方、さまざまところでインタビューをしてきました。

部会の進め方として、1回インタビューを行いまして、その後にその結果を報告して、それでみんなでこれを共有して、そして次の方法を決めて次に移る。同じようなことを繰り返していきます。決めて実行して、その結果を見て、そして次を決めて実行していく。

つまり、こんな具合です。これは前回の全体会議のときにお見せしたプレゼンテーション資料を引用してきております。お手元の資料に入っておりません。申しわけありません。課題の現状を報告し、課題リストを見直し、行動計画を見直し、役割分担をして行動する、これを繰り返していきます。こういうふうに進めていきます。今回、現状の課題というのは、我々は何をいつまでにやらなければいけないのか、誰がやらなければいけないのか、それから、そのためにどんなことが考えられるのかいうことをまとめて御報告します、提案しますというお話をしたんです。つまりは、来年の3月に、幸区の見守り体制のグランドデザインを提案しようということになります。どの程度になるかというのは我々の努力の結果ですのでまだ何とも言えませんが、大きな大きな夢を持っているわけです。このモデルをずっと調査しながら詰めていくということが、ここでいう課題の大きなポイントでございます。このとおりに今

進んでいるということです。つまり、ベースづくりを1つ1つしてきている。だから、それをどんどん続けていきますと、立場を超えて相互理解も生まれるでしょうし、より高い次元でテーマ認識を共有できるでしょうし、目的共有、役割分担の早期実現もできていくだろうと。そうすれば、先ほど申し上げた、我々の来年3月の提案というのは確実にできると思っております。

先ほどのところまではできたな、このまま続けていけるだろうな、ここはまだ到達していないなというのが個人的に古場の現状の感覚でございます。

見守り現場の視察・インタビューは、1月21日、1月29日、2月20日、3月1日、3月4日と、5団体あるいはグループ、1つ1つの御説明はいたしません、それぞれに委員が複数行きまして、皆さんと活動をしたり、あるいはいろんなお話を伺ったりというようなことをいたしました。それを今蓄積している最中であると。ここで1つ1つやるたびにどんどん賢くなっている。例えば塚越の陽だまりを見たときには、初めてのインタビューですから、塚越の陽だまり自体を詳しく知ることが不十分にしかできなかったという反省があります。民生委員さんたちのインタビューをしたときも、まだ十分ではなかったなど。しかしながら、老人クラブの友愛活動、戸手中部の会食会、いきいきサロンのやすらぎは、これに参加しながら、交わりも含めてだんだん進歩していったなと思います。

この後、明日、区社協の事務局の方たちのインタビューが予定されています。それから、区社協の役員の方たちのインタビューも、まだ決まっていないのですが、実施したいと思っております。それから、非常に大事なポイントとして、町内会・自治会の皆さんに現状をお聞きしたいということもあります。したがって、現在そういう申し入れをさせていただいて、まずアンケートをさせていただくことを御了解いただいたという状態にあります。

何が変わったかということなんですけれども、まず1番は、区民会議への委員の理解が深まった。区民会議委員の任務と責任についても理解が明確になった、基礎ができたということだと思います。2番目に、見守りについて委員の理解が深まってきた。調査が実際に進み出してだんだんと事実に触れることができた。先ほど申し上げたように、最初、2回目、3回目とだんだん聞けることが深くなって、つまり、それは多くの気づきが次々にあるので賢くなっていっている。偉そうに言いますが、私はそう思っています。したがって、部会での議論が質的に向上してきている。

その結果どうなったのか。現在、まだ大きなアウトプットがどんどん出ているわけではないんですが、これ自体は非常に重要で大きいことです。見守りのモデル——先ほど申し上げた見守り体制のグランドデザインでありますけれども——最も重要な見守りの定義が仮決めできた。仮決めというのは何かということですが、何かよりど

ころができないと物を考えるときに集約していかない。しかしながら、きっちり決めてしまったならば、後で取り消して直すのが難しいので、まず仮決めとして、やってみて、具合が悪ければ後から直そうということなんです。

それで一番最初にできた我々のアウトプット第1号、「見守りの定義（仮） 私たちにとって見守りとは一『ほっておくと（このひとの身に）まずいことが起こるかもしれない』『取り返しのつかないことになる前に、見つけて、守ってあげたい』そうした『思い』と『行動』」の2つが合わさったものである。

いろんな方からそれに対して御意見や何かがこれからどんどん出てくるだろうし、これに基づいていろんなことを考えていって矛盾が出るかもしれない。そうしたら、こだわりなく、より正しいと思われる定義に取りかえていきたいということでございます。

先ほど、見守りのモデルと申しました。その大ざっぱの骨のところだけ、基本要素だけを申し上げれば、その1番は見守りの定義である。これがぐらついていたのでは、でき上がってくるものの正しさに保証がないということになるかと思えます。2番目に、みんなで見守りたいと言っているんですけども、そのみんなとは見守る人であり、担い手である。その範囲と構成及び役割分担を決めていかなければならない。3番目、見守られる人、これはサービスの受け手ですけども、その範囲と構成及び具体的な見守りのニーズを決めていかなければならない。我々が調査することによって全貌を逐次膨らませて蓄積していって、その過程の中から、不完全なものからだんだん精度の高いものへと決めていく。最初は大体こんなものだろうと思ってやってみても、新しい事実が見つかったらそれによって取りかえていく。最後に、ニーズに対応する見守り活動、そのサービス、仕掛け、コスト負担とかを決めていく。決めていくというのは、事実が何だかわかってきて、その中からこうだということのある程度合意、みんなが共有できたら、それを1つのモデルのポイントだということ決定していくということでもあります。

今後どうするかですけども、調査を速やかに実行し、その結果に基づいて審議し、逐次見守りモデルの基本要素を決定ないしは修正していく。先ほど申し上げたことを文字にしたということです。審議の結果に基づいて調査の対象範囲を広げたり、入れかえたりしていく。先ほど申し上げたように、今後ある程度多くの方たちに事実について調査させていただかなければならない。そして、そこで真実をつかんでいくということをも丹念に続けていく。

これは私どもの部会を運営する上でのロードマップ。これは議決を経たわけではないので案という形ですけども、大ざっぱにはこんな具合であります。今日、ここにいる、今、我々は、進んでいるという段階にいる。少なくとも一番大事な1つを決めたくらいですから、ある程度進歩した。

調査のところは、今後、社協をインタビューする、区を取組を調査する、それから町内会の方たちにアンケートをして、町内会の一部、特徴的な幾つかの町内会をインタビューさせていただく。それともう1つ、これはどちらかというと、現在の見守り活動を引き受けて、主体としてやっておられると感じられるさまざまな団体さん、法人さん、機関等です。この機関の中には公的機関としての区があるわけですがけれども、そういうところにもインタビューをして、まだ我々に見えていないところがたくさんあるかと思えますので聞かせていただく。

大ざっぱに言って、ことしの6月の終わりくらいまでには、最初のモデルIがおぼろげながらも見えるようにしたい。それは、7月の区民会議で私どもが報告できるようにしたい。それが大きな我々の目標である。そのために、先ほど来申し上げている調査を進めている。これをさらに進めていって、ことしの11月か12月ぐらいにある程度報告に値する、提案するのに非常に近い程度の完成度に持って行って、最後に、それを調整して3月のフォーラムに間に合わせるといような時間割で進めていきたいと考えています。

以上でございます。

西野委員長 ありがとうございます。ただいま古場部会長から熱く御説明いただき、皆さん大変よくわかったのではないかと思いますけれども、御意見がございましたら。

石原委員 この間、企画運営部会でちょっとお話ししたこともあったんですが、32ページに、見守り現場の視察・インタビュー実行一覧と書いてございますが、これで見ると調査先に日吉地区が入ってございませぬが、今後これは入る予定でございませぬか。それで、どうやってこの陽だまりとか、南河原地区とか、老人クラブとかを選んだのでしょうか。そのあたりがちょっとわかりませぬし、インタビューといっても、どのようなことをインタビューしたのか。ここには触れられていませぬので、そういった細かいこともお聞きして、一言でいいですけども。先ほど何回もインタビューするとかアンケートするとか言っていましたけれども、その内容的なことが全然触れられていない。インタビューはインタビュー、アンケートはアンケートでおさまっていますので、その辺のところをちょっと、ポイントだけよろしく願います。

以上。

古場委員 一言で言うと、現在のところ、手のつけやすいところから順番に行っている。やりやすいところからやれというのが物を進める上での一番大事なポイントですので、手のつけやすいところから順番に行っている。我が部隊の至宝と言っていい檜林さんがおられますので、いろいろ教えていただいたり、あるいはこちらにはベテランがたくさんいますので、そういう人たちの出してくるもの、あるいは御経験を煩わせてというところがまずスタートであります。その中から、じゃ、こういうところも調べなければいけないな、こういうところも調べなければいけないなというのがだんだ

ん積み上がってきて、やはり全町内会に、全貌は大体こんなものだというのを教えてもらわなければいけない。それは、一番最初はアンケートがいいだろうなど。

アンケートの内容は、地域の状況、例えば居住環境が昔に比べるとどんどん変わっていますね。マンションがどんどんふえていっている。そのようなことも含めて、マンション率はどのくらいだろうとか、各町内会で見守りの活動としてどんなことをやっておられるのかということアンケートしようとしています。特別に何かやっておられるのであれば書き加えてくださいとお願いしております。できるだけシンプルにお答えいただいて、その中で特にここを聞かせていただかないといけないなというところがあれば、ある限られた数でしょうけれども、そこにインタビューしたいと考えています。

何をインタビューしているのか。まず1つは、第2回のお話でしたが、我々のところは混成軍です。福祉の世界をよく知っておられる方と、私が一番知らないわけですが、福祉に素人の混成軍であると。これは、何も福祉の知識の先頭を走っている方に合わせる必要はないので、それぞれの得意なところをまぜ合わせていけば必ずいい結果が出るということなんです。そうはいっても、実態を知らないのでは考えることもできないわけなので、そういう意味で、活動そのものの現場というものを実感するということが1つの目的です。

それから、そこでどんな困ったことがあるのか、あるいはどういう課題があるのかをそれぞれにお聞きし、さらに我々がそれを考えるようにする。単にお聞きしたものをうのみにするというではありませんで、さまざまな方法でその他の調査もしておりますし、解析もしている。そのような形でやっております。

大きく言うならば、幸区の理想の見守りはどのようなものかというのを見つけないというのが漠然としたところですが、現状についても、こういうふうにとやろうとしているということで、既に制度ができたものでも、そのとおりにいっているのかいないのかという現状の建前と本音みたいなのも含めて、少しわかってきたので今後は調査していきたいと思います。

西野委員長 ありがとうございます。ほかにございませんか。あと、参画した方で御感想等々いただけたらと思うんですけども。

村田委員 まず、おっしゃいました32ページで、どこに調査に行ったかという中で、民生委員は南河原地区が出ているんですけども、まず民生委員の仕事としましては、地域の実情を把握する、あと、自立生活が困難な方々、要支援者と言っていますけれども、その見守りをする、安否確認をするというのが入っています。それで南河原地区というのは、大宮町や幸町など川崎駅西口では新住民が入居する高層マンションがありまして、そこでの民生委員の活動が、地域の実情を把握するのは大変でないか、どのような形でしているのか、安否確認もオートロックマンションでなかなか入れな

い、隣の人とはどんな人か全くわからない地域なものですから、そこで民生委員がどのような見守りをやっているかということ、まずその大変さ、現状を知っていただくという形で南河原地区を選びました。ほかの団体もそういうふうな根拠を持って場所を選ばせていただきました。

西野委員長 ありがとうございます。

酒井委員 塚越の陽だまりでは男性が少ないもので、1人ぼつんとした男性を狙って、どうしてここへ来たんですかと質問をしたんです。そうしましたら、私は外へ出ているんな人の顔を見て自分に力をつけてもらう、だから来たんだと言うんです。来て動きはできないけれども、そういうことで自分に勇気というか、いろいろな勉強になるというんですね。その方の息子さんが哲学を勉強しているらしくて、いろいろな面で哲学的に考えて自分で行動する。うちにいて引きこもっていたのではだめだということだそうです。ですから、そういう人は自分から進んで勉強しているんだな、偉いなと思っていろいろお話を聞きました。その人も長く話をしたかったらしいんですけども、時間の関係でそれだけに終わったんですけれども、以上です。

西野委員長 ありがとうございます。あとはございませんか。

遊佐委員 私も陽だまりのほうで参加させていただいて、アンケートでもそうですけれども、この陽だまりをどういうところで知ったのか、この場所をどうやって知りましたかということでお聞きしたり、参加している中で、どういうことが楽しかったかとか、どういうお話をしているのかとか、そういった内容もお聞きしました。やはり長年参加している方々が多くて、その中で突然姿が見えない方、不参加の方に声かけをなさっているのか。毎回来ていたのが急に来られない方、何かあったのではないかということで参加者の方で声かけをしているのか。皆さんのほうでも声かけをしてくださっているということなので、私たちにすれば、よかったなという部分はありました。

その方々は、内容をとても楽しみにしていると。イベントに参加するのも、きちんと把握している方が多くて、それに関して毎回楽しみにして、体操なりなんなりして体を動かしたり、他愛ない会話かもしれませんが、そこでひとり暮らしの方も会話ができる、その楽しさで参加していますということをお聞きしたら、私たちも、ここでインタビューしてよかったなと思いました。

以上です。

西野委員長 ありがとうございます。

原委員 いろいろ参加させていただいて、今質問があった、なかなか見えないというところの中間報告として、参加した経過、私たちはそれでどういうふうに思ったかという報告がなされていないからではないかと今思っております。その都度、見守りという最初の大きなテーマを、委員長がとても専門的にしっかり上げてくださったんですけ

れども、スタートのときはさっき言われたように、公の場に出てこられない方たちにどうやって私たちは目を向けていったらいいんだろうかというところからスタートしています。それにまだ行き着いていないかなというところで、その中間報告がもう少し具体的に上げられたらよかったのではないかと。暮らしの安全部会の方は非常に具体的にテーマも、中間報告も、今後の目的も見えるように書いてくださっていて、すごく感心したというか、私もDIGをやっていたのでよくわかるので、そういう形に我々も、これから先は見える形で報告したいと思いますので、次回をお楽しみにしてください。

西野委員長 榎林さんは何かないですか。

榎林委員 ここにインタビューを実施したところがいっぱい出ているんですけども、一応私は全部わかっているつもりなんですけれども、余りわかっている委員長は、勉強しなければいけないですよ。だから、全部自分の目で参加して、インタビューして、それで自分できちんと把握して私たちをその方向に連れていきたいと思っていられるので、今はちょっと時期尚早なので、その内きちんとした見守り、幸区の見守りはこんなふうやっていくよというのが出ると思いますので、少々お待ちください。よろしくお願いします。

西野委員長 一番わかりやすい御説明をいただきまして、ありがとうございました。

陽だまりはもう4年、5年ぐらいたっているのかな。大分近所の方も気軽に行って、あの人来ないな、この人来ないなという環境がかなりできているみたいなので、ああいうところがたくさん出てくるといいんじゃないか。

あと、先ほど南河原地区の高層マンション云々というのがありましたけれども、非常に難しい問題で、僕は柳町自治会の会長をやっていますから、昨年度から全て網羅して、60歳、私も60歳以上になっちゃったんですけども、調べてマップに落とし込む作業に進むのはなかなか難しいんですね。やはりマンションの中の住人の情報が、区から来る部分はわかるんですけども、それ以外の部分は全く見えないので、この間新聞で、法律でそういう部分に対しても開示できて見せていただけるというようなことも出ていたので、法律がうまく定まって、ある程度のところで情報を見せていただけるといいと思っています。

ほかに御意見はございますか。

春田委員 防災のほうで、私の孫も日吉中学校なんですけれども、障害者施設とかが載っていないと思うんです。もし万が一のときに、その方たちを助けるという意味でもここに入れていただけたらいいかなと。

西野委員長 そうですね。それも結局、先ほどいろいろ出て、中学生を助けるための道具としては使いたくない、中学生は早く逃げてほしい。そのついでにというのであればいいですけども、中学生がつくっているマップの中に障害者施設がありますよとい

うのはいいです。そこへ行ってあなた助けてどこかに行きなさいというニュアンスのものは……。

春田委員 そうなのじゃなくて、ある場所がわかれば。

西野委員長 その程度はいいと思います。

近藤委員 DIGの中ではやっていました。ちゃんと障害者施設とか、ガソリンスタンドもそうでしたし、ほかにもいろいろ出ていたので、そういうのを参考に。

春田委員 小倉、南加瀬、北加瀬あたりは今どんどんできていますよね、グループホームとか有料老人ホームとか。そこを知っているだけでも違うと思いますけれども。

西野委員長 これも先ほど話したように、現在進行形でございますので、最後は素晴らしい結果が出るんじゃないかと思います。御期待いただければと思います。

これは、結局それをもとにして、ほかのところでもそういうものをつくって、要するにマイマップですから、それをもとにしてつくっていったらいいかなという感じなので、大きなもので見るよりは、やっぱり自分たちの範囲内だけだったらいつでも見やすいんじゃないか。それが目的ですので、見守りたいの人たちと一緒にオーバーラップする部分が多分たくさん出てくると思います。こっちの地図には陽だまりが載っているけれども、こっちには載っていない、そういうのでいいんじゃないかと思います。全部に載せていくと、シンプルさに欠けてしまい、何が何だかわからない。それこそ、カーナビでコンビニを入れたらコンビニが全部出てきちゃって地図が何も見えないという、そういう状態になりますので、自分たちでシンプルな形で進めていただけたらいいと思います。

鈴木（忠）委員 私、先日、部会に参加して一番感心したことは、古場委員が、見守りの定義ということで、見守りの定義には6つの見守りがあるということで、診断の診る、目で視るの視る、見てあげるの見る、観察するの観る、撮影の撮、御覧になるの覧、こういう「みる」があるんだけど、この「みる」をどうやって見るかが大事だということを古場委員からお伺いして、本当に素晴らしいことを言うなと思って、私は感心しました。それだけお知らせいたします。

西野委員長 ありがとうございます。言葉だけだったら、机上では何でも言えますし、地図でもつくれますけれども、それをやはりシンプルさを持って、いろんな面で活用できるようにお互いの部会が進めていただければなど。

それでは、副委員長からまとめをお願いします。

神谷（厚）副委員長 すっかりまとまったような気がいたしますけれども。今回も、アンケートをするというだけではなく、みんなで視察する、そしてインタビューをしてみる、そういった中でみんな飛び込んで行って、ずっと長いことやっていらっしゃる方たちもそうじゃない方たちも、いろんなところでまたその場で違った気づきがあるかと思うので、そういうことを経験しながら、この実行一覧というのが出ていて、その

後の定義とかがどんどん出てきているというのは、大分進んできたのではないかと思います。この見守るということは、前々からのことなので焦らずにしっかりまたやっていって、皆さんの実力をどんどん発揮していただきたいなと思いますし、法律も、開示できるような形になってきているということなので、そういうことから一歩ずつ進んでいけるんじゃないかと期待しております。

西野委員長 副委員長、ありがとうございました。

それでは、本日は参与の方が3名ほど見えていらっしゃいますので、一番最初から見えていた小田先生からひとつお願いします。

小田参与 いろいろ聞かせていただきました。まず、暮らしの安全部会ですけれども、すばらしい試みだと思います。こういったことをされると、こんなこともしてほしい、あんなこともしてほしいといろいろあるんですけれども、1点だけ申し上げたいと思います。

まず、この間の震災、3・11はたしか午後3時前でした。そして、その前の阪神・淡路大震災はたしか午前5時か6時ちょっと前だったと思います。このように震災というのはいつどんな時間帯に起こるのかが非常にわからないというところで、幸区というか、川崎市は実は昼夜間人口比率、いわゆる昼間と夜の人口差が大都市で一番大きな市です。つまり、昼間、大人がほとんどいない市なんです。そういった意味では、中学生にこうした試みをしていただくのは非常に有効だと思います。ただ、ちょっと気になるのが、小学生はどうなるのかというのが非常に気になるところでして、幼稚園、保育園もそうなんですけれども、そういったところも可能であれば御検討いただきたいと思います。

それから、見守りのほうですね。これは、今まさに研究と勉強を重ねているという話ですので今後に期待したいと思うんですけれども、私も実は南河原地区の高層マンション住まいの人間なんですけれども、非常に近所つき合いには苦勞しています。そういった中で、これから新しい住民の人たちも含めてどうやって見守りの体制をつかっていくのかというのは非常に課題だと思っていますので、その辺は期待したいと思っています。

西野委員長 ありがとうございました。

山田参与 途中からの参加で申しわけございませんが、今1年目が終わるということで、感想としては、丁寧に議論を進めていただいている。また、先ほどもありましたように、現場を見るということを中心に重点的にやっていただいているなと思います。

私の感想としては、暮らしの安全部会とみんなで見守りたい部会の結論が出ると、多分これからの幸区のいろんなことに対して一緒にできるのではないかと考えています。災害は災害のものだけ、見守りは見守りのものだけではなくて、そういうことがこれから求められていくんだなと思いますので、1年間の活動に大いに期待させてい

ただきたいと思います。

西野委員長 ありがとうございます。田中先生、お願いします。

田中参与 参与を務めています県議会の田中でございます。今、最後のほうで、鈴木

(忠) 委員から見守りの定義の話がございました。こちらのパワーポイントの資料の34ページにも出ていますね。見守りの定義云々と良いことが書いてあります。そうした思いと行動というところで結ばれているんですけども、この見守りというのは、皆様がふだん御家庭の中で、例えば民生委員の皆さんとかは普段のお仕事だったり、おうちのことだったり、自分のことがありながら、でも、ボランティアの部分もあって動く場合もあれば、既に幸区で取り組んでいるものとして事例で上がっているんですけども、京浜新聞販売組合、要は新聞配達員の皆さんが、ポストに新聞がたまっているな、最近この方は元気かしら、元気じゃないのかしら、コンコン、どうですかという取組もあるんです。ただ、これはもう既に始まっているといっても、どこまで広がりがあるかというところで、実は私のところにも、新聞会社さんから相談があるんですね。こういった見守りだとかで地域のために協力がしたいんだと。何かそういった取組をするに当たっていろいろと物事が進まないかなという話がありまして、それがどのくらいのスピードで上がるかどうかわからないんですけども、ぜひ皆さんのこういった幸区の区民会議、まさしくかんかんがくがく真剣に本当に議論されている場があるんですよ。

私たち参与を務めている議員というのは、やはり地域のいろんなどころに出ますから、逆にそういった協力してくれる方々のつながりというものもあるんです。だからそういった方を、もし今度機会があれば、会議のオブザーバーで新聞社の人を連れてきちゃおうかなと、今日の会議の場を見ながら私は思っていたんです。ぜひ私たち参与も、ただいりだけではなく、参加して与すると書いて参与ですから、雑巾のようにこき使っていただきまして、また次の区民会議、私、今そういったことも思いましたので、いろんなアクションをまた一緒にできればと思います。

ちょっと長くなりましたが、以上です。

西野委員長 田中先生、すばらしい御意見をいただきまして、ありがとうございます。余りいい方を連れてこられると、今度こちらがいじめられるといけませんので、優しい方をお願いできればと思います。

4 幸区区民会議の今後のスケジュールについて

西野委員長 それでは、議題4、幸区区民会議の今後のスケジュールについてということで、資料3の日程表を御確認いただきたいと思います。区民会議全体会ですが、次回は7月、その次は来年の2月、第4期のフォーラムは来年の3月16日日曜日の予定となっております。また、専門部会につきましてはそれぞれ6回ずつ開催していただく

予定になっております。スケジュールを確認していただき、予定を入れていただきますように、よろしくお願ひしたいと思ひます。

5 その他

西野委員長 引き続き、皆さんいろいろとあると思ひますが、ぜひ時間をうまく割いていただき、参画していただければと思ひます。今日は本当にいろいろすばらしい審議をいただき、お互いの部会で参考になったのではないかと思ひますので、お互いの意見を尊重し、あるいは意見を取り入れながら進めていかれる区民会議となつて、各部会がこれからますますいい方向に行かれるように皆さんで頑張つていただければと思ひます。

以上をもちまして、すべての議題を終了いたします。委員の皆様には長時間にわたり本当にありがとうございました。また、議事進行に関しては、委員の皆様、そして参与の皆様、本当に御協力ありがとうございました。

それでは、事務局にマイクをお返しいたします。よろしくお願ひいたします。

閉会

司会 長時間お疲れさまでございます。事務局から1点だけお話をさせていただきます。本日のこちらの会議でございますが、会議録を作成いたしまして、委員の皆様へお送りいたしますので、御確認をお願ひしたいと考えております。

本日は委員の皆様、また参与の皆様、長時間ありがとうございました。次回の全体会議につきましては、少し先ですけれども、7月8日月曜日18時半から、場所は幸市民館の大会議室を考えておりますので、よろしくお願ひいたします。

今日は3回目の全体会議でございましたけれども、やはりそれぞれの専門部会でいろいろと調査審議が進んできておりまして、大変活発な意見交換、御審議をいただけたのではないかと感じております。どうぞ引き続きよろしくお願ひしたいと思ひます。

それでは、長時間本当にありがとうございました。以上をもちまして会議を閉めさせていただきます。ありがとうございました。

午後7時58分 閉 会